

令和 2 年度難病療養事業の実施状況

(R2. 11 月末現在)

令和 2 年度の難病療養事業については、新型コロナ感染拡大防止のため、リハビリ教室については、4 月～6 月まで休止していたが、参加を予約制とし参加時は検温と手指消毒、換気等の対応をとることにより、7 月より事業を再開した。

なお、発声を伴う音楽療法については、飛沫感染等の観点から現在も事業を休止している。

1. リハビリ教室

理学療法士により椅子に座っての体操と情報交換（感染防止策を講じたうえで開催）

(1) 参加実績

7 月 6 日	7 名	品川保健センター
7 月 16 日	8 名	荏原保健センター
9 月 17 日	16 名	荏原保健センター
10 月 19 日	13 名	品川保健センター

(2) 参加者の状況および意見

状況	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ感染症を心配して、事業への参加を見合わせる方がいた。 ・7 月に事業を再開した際には、久しぶりの再会で参加者同士笑顔がみられた。 ・マスクの着用や休憩時間内にソーシャルディスタンスを取りながらの会話などが定着しており、参加者も「新しい生活様式」に慣れてきている様子が伺えた。
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリ教室に参加し、実際に体操をして身体を動かして帰ると気分が優れ、体調も良く感じる。 ・リハビリ教室の休止期間中は「ずっと外出自体を控えていた」、「自ら散歩を継続していた」といった複数の意見があった。 ・音楽療法が休止となっているため、声が小さくなり、むせやすくなったので言語聴覚士の指導を受けた。 ・リハビリのため、自宅で塗り絵などをやるようにしていた。

2. 難病患者・家族のつどい

講演会と交流会の方法で実施した。

(1) 参加実績

11 月 9 日	7 名	品川保健センター
----------	-----	----------

(2) 講演

歯科衛生士によるお口の健康の講演『自宅でできるセルフケアとかかりつけ歯科医院でのメンテナンス』をテーマに実施。顔面体操や舌のストレッチ、唾液腺マッサージの必要性を再認識できるような内容となった。

(3) 交流会

今年度初めての交流会となったため、参加者同士の近況報告が活発に行われ、参加者からそれぞれの経験を交えた話やお互いの情報交換の場として、とても有意義な交流会となった。

また、「品川防災ハンドブック・品川区防災マップ」「東京マイ・タイムライン」を活用し、平常時からの備えや災害時の行動計画を事前に考えておくことが重要であることについて説明を行った。

3. 難病講演会

(1) 参加実績

9月17日(木) 品川区第三庁舎6階講堂 参加者46名

テーマ:「パーキンソン病を知りたい」 講師:黒田岳志先生

今年度の難病講演会は、支援者向け(ケアマネージャー、訪問看護師、ホームヘルパー等)を対象に実施した。

(2) アンケートによる参加者の意見・感想

- ・病気への理解が深まり、病気の特徴や支援者としての留意点が理解できて良かった。
- ・薬の種類や作用について理解が深まった。
- ・本人の不安に寄り添う言葉かけの具体例が挙げられ、大変参考になった

4. 難病患者・家族向けのご案内リーフレットの作成

保健センター等の事業案内のほか防災についての案内を新しく掲載した(資料)

5. リハビリ訪問

1件:利用者疾患名 筋萎縮性側索硬化症

相談内容 在宅でのリハビリについて、在宅改修についての助言、家族へ介助の指導

6. 在宅難病患者訪問診療事業:医師会

品川区医師会	延9名
荏原医師会	延3名

※R2年度は新型コロナウイルス感染症のため6月から開始

7. 在宅難病患者一時入院事業:東京都

延べ2名利用(品川:1名、大井:1名)